

コーラルテックス施工要領（リフォーム～クロスの上から～ローラー仕上げ編）

ご用意いただくもの

- コーラルテックス
- 砂骨ローラー（推奨品 細目 6インチ）
- ローラーフレーム
- ローラーバケット
- ひしゃく
- 霧吹き
- 養生テープ（推奨品 養生テープ 24mm 以上）
- マスカー（推奨品 マスカー 1100mm）
- ブルーシート
- 多用途シール（推奨品 コニシ「目地・すき間壁のひび割れに」）
- ヘラ
- 道具洗浄用ブラシ
- ヤニ止めシーラー ※アクの原因が残留してる可能性があるため

作業手順

① クロスの洗浄

クロスのひどい汚れは、洗剤を使用してきれいにしてください。
特に油汚れは接着の妨げになりますので、十分に汚れを落と
してください。

② 養生

コーラルテックスがついては困るところを養生します。
床はマスカーで、その他は養生テープを使用します。

③ クロスの補修（必要に応じて）

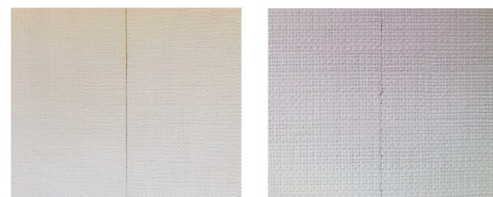
クロスが乾いていることを確認してから、多用途シールを
使用してヘラでクロスの破れ、目地割れを補修してください。
※ 推奨品（多用途シール）の上にもコーラルテックスは塗れます。

④ シーラーの塗布

アクの原因となるものが残留している可能性がありますので
ヤニ止めシーラーを塗って完全に乾かしてください。
クロスが古い場合は、剥がしてから施工することをおすすめします。

※この場合、石膏ボードのジョイント処理が必要です。

剥がしたときに裏紙が残りますが水で湿らせて取り除いてください。
残った状態で塗布しますと、仕上がりに悪影響が出る可能性があります。



⑤ コーラルテックスの塗布【下塗り】

下地処理が乾いた後(1日以上を推奨します)、再度②の要領で養生を行います。コーラルテックスを開封し、乾燥したカスや粉が入った場合は取り除きます。

ひしゃくでバケットに移します。

専用の砂骨ローラーをフレームに装着し、バケットに浸けて、コーラルテックスが落ちない程度にバケット内の網目で落とし、壁の隅から塗り始めます。

霧吹きで水が滴り落ちない程度に壁に付着したコーラルテックスに水を与え、砂骨ローラーで、模様と厚みが均一となるようによくのばします。(20kg 缶に約1~2Lの水を加え、よく混ぜて頂いても結構です。水は水道水で結構ですが、市販の水や一度沸騰させた水を使用するとより保存が効きます。)

壁一面が塗り終わるまで、塗った際が乾かないように霧吹きで水を与えながら、均一に仕上がるよう施工をしてください。

※細かい欠点は気にせず大きな面としての美観を意識してください。

※やや乾燥した箇所を補修する場合、霧吹きで水が垂れない程度に吹き付けて補修をしてください。



⑥ コーラルテックスの塗布【上塗り】

⑤の要領でもう一度塗りを繰り返します。